

【資料①－1】

# 令和4年度 事業報告書

自：令和4年4月1日

至：令和5年3月31日

社会福祉法人いこま福社会



# I . 法人本部

## 1. 法人本部

### (1) 人材獲得・定着・育成

- ・2023年3月卒に対しては、コロナ禍で説明会はほぼwebでの説明会となった。遠い地域からでも参加しやすいメリットもあり、県外在住の学生の内定に繋ぐこともできたが、実際に来所して感じる施設の雰囲気伝えることにも難しさを感じた。
- ・face to fukushiでのダイレクトリクルーティングにも期待していたが、結果としては成果報酬型ではなく月額払いとなったため、検討の結果、今期はface to fukushiの利用は避け、インターンに力を入れて取り組んだ。2名の施設内インターン、1名をオンラインで受入れし、施設内インターンに参加した2名は採用選考まで進めることができた。
- ・外国人技能実習生の2期生について、ベトナムの送り出し機関ともコンタクトを取ったが、介護関係に興味関心のある学生の確保が困難となっている、ベトナムの人件費が高騰していることから、受入れを見送ることとなった。代わりに国内で技能実習を修了し、特定技能に移行する外国人の受入れを調整、面談を実施し、令和5年1月20日から新たに2名の受入れを行ったが、業務内容があわないなどを理由に2月3日付で退職することとなった。引き続き新たな特定技能生の受入れを調整していく。

### (2) 虐待防止に対する取り組みについて

- ・施設長会議の後に引き続き虐待防止委員会を設置し会議を行った。日常の支援上での思い込みや考え方、虐待防止の視点で見たときの気づきなどについて議論し、そこでの話し合った内容は各事業所の職員会議等でも周知するよう努めた。

### (3) ICT活用整備促進

- ・管理職に対してスケジュール管理や情報共有のシステムとしてグループウェアの試行を行い、振り返りを行ったが、現時点でグループウェアを導入してまで管理、共有するメリットがなかったため、試行したグループウェアについては導入しないこととなった。引き続き、業者にも情報提供してもらいながら、検討をすすめている。
- ・支援員で業務負荷の多い記録の取り方について、タブレット端末や音声入力について、情報収集しており、NDソフトウェアなどから情報収集を行った。現状の支援ソフトよりもコスト高ではあるが、補助金等の活用も含めた導入であれば検討の余地があるため、具体的な体験や試行を行っていききたい。

#### (4) 事業推進

##### ①暮らし

- ・小瀬地区プロジェクトについては、今年度の施設整備補助金の申請は見送りとなった。新たに設計業者を選定するため、プロポーザル方式での選定を行い、「株式会社ゆう設計事務所」と契約交渉を行うこととなった。

##### ②海外支援・交流

- ・コロナ禍の中、渡航や来日のスケジュールも不安定な状態が続いていたが、5月末から6月にかけてカウンターパートのナサクチャの所長を含む2名の来日を受入れ、日本の障がい福祉施策や紙漉きについて視察してもらった。11月中旬からはプロジェクトマネージャー1名、12月初旬から3名がセルビアへ渡航し、プロジェクトの最終目標達成に向けて現地の実践の評価を行った。令和5年2月にも、ナサクチャの職員2名が来日して、障がい福祉施策や紙漉きについての視察や実地指導を行った。

##### ③地域公益

###### a. いこいこまつり

- ・いこいこまつりについて、コロナ禍で何とかできる方法を検討する中で、地域の保育園、幼稚園の発表の機会が減っていることから、今回は一般の方の来場は制限し、保育園、幼稚園の園児の発表を中心に第8回いこいこまつりを開催した。2年ぶりのまつりということもあり、子どもたちとメンバーが中心となって盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができた。

###### b. やまびこネットワーク（壱分小学校区市民自治協議会）

- ・やまびこネットワークについて、会議では今年度のやまびこネットワークの活動の協議に参画した。イベント行事として、コロナ禍で中止していた子ども会のさつま芋イベントも実施することができ、秋の収穫時には子どもや学生、大人も一緒になって収穫し、最後は焼き芋を食べて楽しい時間を過ごすことができた。2年前に農業塾に参加されていた2組の方が参加しており、「かざぐるま好き」と言ってくれていました。

##### ④いこま福祉会法人設立20周年記念

- ・令和4年7月16日（土）奈良市にある「ホテル日航奈良」にて、法人設立20周年記念祝賀会を行った。コロナ禍のなかで感染対策を徹底するよう企画から検討し準備してきたが、開催日まであと数日のところで、全国的な第7波の到来。奈良県でも開催の3日前には感染者が1,000人を超え、開催も含

めどうするか苦慮した結果、ご来賓やご家族の参加は中止し、メンバーと職員だけで開催することになった。法人が設立してから 20 年間の歴史を DVD で振り返りながら、美味しい食事をいただき、メンバーの皆さんも普段とは違う空間の中で、楽しく過ごすことができた。

- ・11 月 15 日に実行委員、記念誌作成委員合同で実行委員会をホテル日航奈良で開催し、20 周年記念事業の振り返りを行い、祝賀会で提供した食事や DVD 鑑賞を行った。

#### (5) 自律支援部

- ・ご家族の病気や体調不良によりご本人のケアが難しくなったケースが多く、短期入所や個別支援を活用しながら少しでも安心して生活できるよう、工夫した。状況に応じて、生活支援センターの相談支援員や法人内外の各事業所との連携も適宜行うことができた。
- ・言葉や行動で自分の気持ちを表現することが難しいメンバーが多くおられ、日頃の支援においてご本人の行動や表情等から想いを読み取り、関係者間で話し合いながら意思決定をサポートする意識を持ち、法人内を横断的に動くことを心がけた。しかし、障がいの多様化や職員の支援スキルの違い等により、すべてのメンバーの意思決定支援を充実させるまでには至らなかった。

#### (6) 法人事務局職員体制

- |       |        |          |
|-------|--------|----------|
| ・事務長  | 常勤 1 名 |          |
| ・経理係長 | 常勤 1 名 |          |
| ・事務員  | 常勤 4 名 | サポート 3 名 |
| ・運行   | 嘱託 1 名 | サポート 4 名 |
| ・栄養士  | 常勤 1 名 |          |
| ・看護師  | 常勤 1 名 | サポート 2 名 |

#### (7) 情報発信

- ・かざぐるま通信を 10 月に発行し、法人全体の活動や状況報告を行った。
- ・いこまふくしかいだよりを 7 月、11 月、3 月に発行した。通所事業の活動報告や農業プロジェクト、イベント報告、新型コロナウイルスに関する情報などを発信した。
- ・かぜいろだよりを 9 月と 3 月に発行した。障がい福祉制度の紹介やリレートーク、地域資源の紹介を発信した。
- ・ホームページによる情報発信を行い、随時休日開所やイベント行事などの様子を発信した。

## 第三者委員会 報告（令和4年度）

- ・令和4年度中に第三者委員会で審議された案件は0件だった。

### （8）リスク対応

- ・新型コロナウイルス対策会議としての実施はしなかったが、施設長会議、所属長会議、毎週月曜日の管理職の朝礼で、感染状況の把握、サービス提供範囲の検討や備品等の確認を行った。
- ・全体のリスクマネジメント委員会の開催には、新型コロナウイルスの感染防止の観点から令和4年度も至らなかったが、毎月各事業所でリスクマネジメント委員会を開催し、事故報告やヒヤリハットについての振り返りや検証の機会を持った。
- ・各事業所にて年2回の避難訓練を実施。避難経路の確認や避難時間、消火器の使い方を確認した。また、土砂災害特別警戒区域にあるきこりでは、土砂災害を想定した避難訓練も実施した。
- ・短期入所で受入れをしていたメンバーが右眉毛上の額を怪我した件について、ご家族からご意見をいただき、後日、来訪されて現場状況の説明と今後の対応について確認を行うことがあった。その後は、利用時にはセンサーを使用してお本人や他者との関係性についても配慮して安心して利用していただけるようご家族とも相談しながら支援をしている。見える透明性のある支援を提供するためにも見守りカメラなどの導入も検討する。
- ・工房結でメンバーに対する行動制止の支援の様子を見た地域の方が虐待通報をされることがあった。問い合わせがあった時点で、生駒市、生活支援センター、ご家族へ詳しい状況等も開示をし、生駒市からの調査も経て虐待の事実は認めなかったとの報告も受けた。地域の方からどのように見られるのか普段の支援の在り方を振り返り、再発防止に努めた。
- ・施設からの飛び出し事故があり、隣接する小学校の学童保育で発見されることがあった。以後、門扉施錠等も含めた対策の話し合いを行い、門扉施錠を実施するには至らなかったが、支援の環境整備、本人とのコミュニケーションの見直し等から取り組みを行い、再発防止に努めた。
- ・ひよりの車両事故で、納品移動中に2台の車両を巻き込んだ玉突き事故を起こした。幸い、相手様、同乗していたメンバーに大きな怪我はなかったものの、運転時の不注意や、起こしてから初期対応等には改善すべき点もあり、事故の検証とともに振り返りを行った。

【職員有給休暇消化率】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

※常勤 45名、嘱託 13名、サポート 54名、アルバイト 55名

部課	消化率（％）
全職員	72.3%
日中関係部署	82.7%
ホーム関係部署	52.7%



## II. 日中活動部門

## II. 日中活動部門

### 《総括》

4月より新たに日中活動の拠点として6つ目となる事業所『ひより（生活介護）』が高山地区に開所し、地域交流会や週1回のカフェのオープンを通じて地域の方々にも受け入れられるよう進めることができた。

一方で新型コロナウイルスの第8波などではクラスターとなり休業となる事業所も発生するなど事業運営にも影響を受けることとなった。そのため余暇活動や就労事業等十分な成果を得るまでには至らなかったが、感染拡大の時期も見極めながらコロナ禍でできる活動を少しずつ取り入れて事業を進めてきた。

### 農業プロジェクト

- ・法人全体の農業の進捗について話し合い、農業法人ゲミューゼとも連携しながら、作付け内容や量などについて計画的に生産できるように取り組んできた。
- ・加工品の在庫管理の仕組みが整っていなかったため、加工品に特化した会議をもち、商品管理の仕組みの見直しやマニュアル化を行い、整理することができた。

### 働くプロジェクト

- ・コロナ禍で就労収益が落ち込んでいる中、商品販売方法の検討やネット注文などの販路拡大について話し合い、JAのインターネットショップの出店やメルカリのインターネットショップ開設を進めることとなった。
- ・従来のフェイスブックだけでなく、インスタグラムなどのSNSを活用した発信方法も検討し、ゆうほ～やひよりカフェの情報を発信できるように取り入れた。
- ・今年度に入って、新しい軽作業の依頼が入ってくることもあり、メンバーの作業活動に取り入れることができるかをプロジェクトで話し合った。その結果、新たにメンバーが企業に出向して作業を行う機会をもつことができたり、花手水の装飾作業で設備景観の活動に関わらせていただく話し合いの機会を持つことができた。
- ・メンバーが1年間一生懸命仕事に取り組んできたことに対して還元できるよう、お楽しみイベントとして3月に綿菓子作り体験を実施した。

## 1. かざぐるま（就労継続支援B型・生活介護）・かざぐるまえーる（生活介護）

### （1）総括

新たな職員体制とメンバーを迎え、1年のスタートを切ることとなった中、メンバーの特性なども模索しながら活動を進めてきた。メンバーの意思疎通や気持ちを取り戻す支援、支援力の底上げという点では今後の課題も多いが、コロナ禍でも小規模ながらメンバーと楽しみの時間を持ったり、新たな作業などを通じてメンバー同士が達成感を感じられるように取り組むことができた。

高齢化により介護の状況が大きく変化しているメンバーもあり、健康管理や支援の在り方にも悩むことがあった。メンバーのその時々々の心身の状態に合わせて活動を組み立てていく必要性を感じた。

### （2）職員体制

#### 【かざぐるま（生活介護・B型）】

- ・施設長 常勤1名
- ・サービス管理責任者 常勤1名
- ・支援員 常勤2名 嘱託1名 サポート11名

#### 【かざぐるまえーる】

- ・施設長 常勤1名
- ・サービス管理責任者 常勤1名
- ・支援員 常勤4名 嘱託2名 サポート7名

### （3）利用者の状況

#### 【かざぐるま】（令和5年3月31日現在）

##### ① 年齢構成

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71歳以上	計	平均
男	0	5	4	9	2	0	0	20	38.5
女	2	3	8	3	2	0	0	18	34.8
計	2	8	12	11	4	0	0	38	36.7

##### ② 障がいの程度 区分認定

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	0	0	0	0	9	7	4
女	0	0	0	0	7	6	5
合計	0	0	0	0	16	13	9

### ③ 稼働率

かざぐるま【定員数 40 名 契約者数 38 名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4 月	20	36	85%	10 月	20	36	84%
5 月	19	36	84%	11 月	20	36	84%
6 月	22	36	83%	12 月	20	37	81%
7 月	21	36	83%	1 月	19	37	84%
8 月	20	36	81%	2 月	19	37	84%
9 月	20	36	83%	3 月	22	38	83%

#### 【稼働率分析】

定員数に対して契約者数が下回っていることと、体調不良等の理由により年間を通して通所できなかったメンバーもいたため、稼働率は全体的に 100%を下回る結果となった。

#### 【かざぐるまえーる】（令和 5 年 3 月 31 日現在）

##### ① 年齢構成

	20歳以下	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	71歳以上	計	平均
男	0	5	6	3	3	1	1	19	41.6
女	0	0	2	2	2	0	0	6	45.2
計	0	5	8	5	5	1	1	25	42.4

##### ② 障がいの程度 区分認定

	区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
男	0	0	0	0	0	4	15
女	0	0	0	0	0	0	6
合計	0	0	0	0	0	4	21

### ③ 稼働率

かざぐるまえーる【定員数 20 名 契約者数 25 名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4 月	20	26	116%	10 月	20	25	118%
5 月	19	26	118%	11 月	20	25	117%
6 月	22	26	116%	12 月	20	25	115%
7 月	21	26	118%	1 月	19	25	117%

8月	20	26	117%	2月	19	25	118%
9月	20	26	118%	3月	22	25	113%

#### 【稼働率分析】

定員数に対して契約者数が上回っており、毎月平均して定員数以上のメンバーが通所されていたため、全体的に **100%** を超える稼働率となっている。

#### (4) 重点方針及び事業内容 取組結果

##### ○意思決定支援の強化と支援力の底上げ

- ・取り組みの中ではメンバーにカードを使って活動を選んでもらったり手紙でやり取りするなど気持ちを汲み取る為のアプローチを行った。やり取りを積み重ねた結果、活動に広がりを持つことができたメンバーもいた。しかし、活動中においてはメンバーが様々な理由から不調になることもあり、障がい特性の理解や十分に思いを汲み取った支援ができていない場面もあった。

##### ○コロナ禍における余暇やリフレッシュの機会の充実

- ・新型コロナウイルスの影響により、昨年に引き続き旅行は実施できなかったが、今年は規模や内容を工夫していこいこまつりを開催したり、各班単位でクッキングや散策などのイベント、クラブ活動を実施し、コロナ禍でもメンバーに楽しんでいただく企画を実施することができた。

#### (5) 職員育成、事業所独自のリスク対策、地域との交流、連携

- ・コンサルテーションの事例発表の機会を通じて、日々の支援に対してアドバイスを受け、ご本人の障がい特性などについて理解を深めることができた。
- ・言語聴覚士の先生より摂食指導の機会をいただき、メンバーの食事、摂食の方法についてアドバイスを受けた。
- ・やまびこネットワークより公園の落ち葉回収の依頼をいただき、回収した落ち葉を風のファームに運んで腐葉土として活用した。
- ・さつき台南での販売会にも継続的に参加し、地域の自治会とのつながりを深めていくことができた。
- ・生駒市図書館訪問を毎月館内整理日に設定し、読書ボランティアの方々と一緒にメンバーが本を楽しむ時間をもつことができた。読書サポートボランティアのミーティングではかざぐるまの取り組みや紹介をする機会もいただき、理解啓発に努めた。
- ・年2回の避難訓練を実施した。防火管理者が中心となり、各職員と施設内の避難経路を実際に歩いて確認をした。

【ボランティアとして活動くださった方々】

<班別/月別延べ人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別 小計
いぶき	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
くらふと虹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なかま	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ひかり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
かなで	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
笑風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月別小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

・出店/イベント状況

**定期**

アントレ出店（月1～2回程度）  
 福祉センター販売（月1～2回程度）  
 さつき台南集会所出店（月1回）  
 萩の台住宅地自治会出店（月1回）  
 市内の郵便局出店（月数回）  
 たわわ食堂出店（月1回）

**不定期**

5月 西大寺マルシェ さつまいも苗植えイベント  
 10月 西大寺マルシェ さつまいも掘りイベント  
 11月 農業祭 健康フェスティバル  
       くらしのブンカサイ ふろーらむ  
 12月 障がい者週間  
 2月 やまびこネットワーク冬のこどもフェスタ  
 3月 スポーツの日イベント 福祉センター祭

**2. きこり（生活介護）**

（1）総括

ご本人やご家族の高齢化や体調面の変化に対して関係機関と連携を図って必要な支援を提供できるように取り組んだ。また、作業面では竹炭作業を中心に

それぞれが役割を持って取り組むとともに、定期的に体を動かしたりイベントを実施する機会を設けた。

(2) 職員体制

- ・所属長 常勤 1 名(サービス管理責任者兼務)
- ・生活支援員 常勤 1 名 嘱託 1 名 サポート 3 名

(3) 利用者の状況

【きこり】(令和 5 年 3 月 31 日現在)

① 年齢構成

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71歳以上	計	平均
男	0	4	2	2	1	0	0	9	35.7
女	0	2	2	1	0	1	0	6	41.3
計	0	6	4	3	1	1	0	15	37.9

② 障がいの程度 区分認定

	区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
男	0	0	0	0	0	3	6
女	0	0	0	1	0	3	2
合計	0	0	0	1	0	6	8

③ 稼働率

きこり【定員数 20 名 契約者数 15 名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4 月	20	15	76%	10 月	20	15	70%
5 月	19	15	69%	11 月	20	15	71%
6 月	22	15	70%	12 月	20	15	71%
7 月	21	15	70%	1 月	19	15	68%
8 月	20	15	72%	2 月	19	15	69%
9 月	20	15	72%	3 月	22	15	70%

【稼働率分析】

定員数に対して契約者数が下回っていることと、元々週に数回しか通所されないメンバーがいるため、稼働率が 60～70% 台となっている。週 5 回通所しているメンバーはほとんど休みなく通所された。

#### (4) 重点方針及び事業内容 取組結果

##### ○個別のニーズに応じた丁寧な支援

- ・重度な自閉症のメンバーへの支援について、適切な支援を提供できるよう環境づくりや他事業所へのアプローチを行った。また、畑で落ち着いて過ごしていただくためにゴムマットを常設し環境整備を行った。
- ・メンバーが年齢を重ねていく中で食事面や衛生面など配慮することが増えてきた。そのため、食事提供時の環境の見直しや専門の先生から摂食のアドバイスを受け部署間での共有を図った。また、ご家庭内で本人の清潔保持の困りごとを抱えている方に対し、外部の事業所と連携し入浴支援を行った。
- ・運動不足の解消のため、定期的に散歩メニューを取り入れた。

##### ○作業と余暇の充実を図る

- ・竹炭焼きに関する新たな展開として一般企業から仕事の依頼を受け現在試作を行っている。また、竹炭作業については誰が見ても分かるように写真付きの手順書を作成し、竹炭焼きなど作業工程の映像を記録として残し今後活かせるようにした。
- ・余暇活動としては延期になっていた焼き芋イベントを2月に実施してメンバーさんに楽しんでいただいた。

#### (5) 職員育成、事業所独自のリスク対策、地域との交流、連携

- ・職員の育成については、ホームなどの生活支援を体験し他部署のメンバーと関わりを持つことで、支援手法や生活全体を見る視点を学ぶ機会が得られた。
- ・地域交流については自治会のクリーンキャンペーンや薬師堂周辺の清掃活動に参加し、地域の方々と交流する機会を持つことができた。交流をきっかけにきこりの裏山の竹林の伐採も許可していただくことができた。
- ・リスク対策についてはきこりのある菜畑地区が砂防指定区域に指定されているため和家への非難を想定した避難時の備品購入と避難訓練を実施した。

#### 【ボランティアとして活動くださった方々】

<班別/月別延べ人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別 小計
きこり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



### 3. 喫茶ゆうほー・工房 結 (就労継続支援B型)

#### (1) 総括

##### 【喫茶ゆうほー】

- ・2階の喫茶は新型コロナウイルスの影響で休業期間を長くとっていたこともあり、全体的に大幅な減収となった。売り上げを増収させるために昨年未から総菜販売を始めたり、メンバー活動の充実を図るためにマンション清掃にも取り組んだ。

##### 【工房 結】

- ・4月以降新たなメンバーが2名加わり、それぞれが役割分担しながら紙漉きを作成して受注に対応することができた。一方で紙の厚さなど、安定的に紙を生産することに課題があり対応を模索することとなった。  
メンバーの支援では新しい環境に慣れてきた反面、過ごし方にいくつか課題が見られたため、班異動も視野に入れて実習を行うことになった。

#### (2) 職員体制

- ・所属長 常勤1名
- ・サービス管理責任者 常勤1名

##### 【喫茶ゆうほー】

- ・支援員 常勤1名 嘱託1名 サポート6名

##### 【工房 結】

- ・支援員 常勤1名 サポート3名

#### (3) 利用者の状況

##### 【喫茶ゆうほー・工房 結】(令和4年3月31日現在)

###### ① 年齢構成

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71歳以上	計	平均
男	2	2	3	1	3	0	0	11	37.1
女	0	2	3	1	1	0	0	7	38.6
計	2	4	6	2	4	0	0	18	37.7

###### ② 障がいの程度 区分認定

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	1	0	1	1	4	1	3
女	0	0	1	1	5	0	0
合計	1	0	2	2	9	1	3

### ③ 稼働率

喫茶ゆうほ～【定員数 10名 契約者数 8名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4月	20	8	79%	10月	21	8	80%
5月	18	8	79%	11月	20	8	78%
6月	22	8	79%	12月	20	8	74%
7月	22	8	80%	1月	20	8	78%
8月	19	8	79%	2月	19	8	80%
9月	22	8	77%	3月	22	8	78%

#### 【稼働率分析】

定員数に対して契約者数が下回っているため、70～80%の通所率になっているが、メンバーは年間を通してほぼ休むことなく通所されていた。

工房結【定員数 10名 契約者数 10名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4月	20	9	74%	10月	20	10	79%
5月	19	10	82%	11月	20	10	82%
6月	22	10	81%	12月	20	10	79%
7月	21	10	81%	1月	19	10	81%
8月	20	10	78%	2月	19	10	77%
9月	20	10	83%	3月	22	10	81%

#### 【稼働率分析】

契約しているメンバーの中に週1回の通所の方が2名おられるため、通所率としては70～80%台であった。

#### (4) 重点方針及び事業内容 取組結果

##### 【喫茶ゆうほ一】

##### ○ゆうほ～・お～くるの売り上げアップ

- ・物価高騰の影響もあり、7月の営業再開のタイミングで定食、お弁当の値上げを行ったが来客者数に大きな変化は見られなかった。また、9月からは障がい者応援プレミアム商品券を取り扱い、商品券を使用するお客様も増え始め1階お～くるの商品がよく売れた。年末から総菜販売の実施を行い一定の成果は得られたが、2階の喫茶は4月から9月末までの間、コロナの影響で数日しか営業できなかった影響もあり、全体的に大幅な減収となった。

○得意な作業の幅を広げる

- ・メンバーには 2 階の喫茶業務、1 階の店舗清掃、弁当配達などの仕事に取り組んでもらい、これら以外にも厨房でお弁当の盛り付けや厨房内の清掃なども行った。4 月から入った新しいメンバーも順調に仕事を覚えてもらうことができた。しかし、2 階喫茶の休業中は手持無沙汰な時間が発生するなどの課題があった。

【工房 結】

○紙漉き製造の生産性アップ

- ・4 月以降メンバーの入れ替わりがあり、新たなメンバーの体制で紙漉きの作業工程を行った。例年と同様にカレンダーや名刺などの注文をいただいております、ほぼ毎日紙を漉く作業に取り組んだ。ただし、厚みがバラバラなことが多く、それぞれの商品の使用に適さなかったりするなど、安定的に紙を生産することに課題があったが、注文いただいた商品については対応することができた。

\*名刺売り上げ・・・186,750 円（内、生駒市役所 24,300 円）

\*カレンダー売り上げ・・・450,000 円（450 冊）

○メンバーの特性理解

- ・メンバーの支援については 4 月以降新たなメンバーが 2 名加わった。新しい環境に慣れて毎日安定的に通所ができたが、その中で過ごし方において課題が見えてきたため、他班への異動も視野に入れて実習を実施した。

(5) 職員育成、事業所独自のリスク対策、地域との交流、連携

【喫茶ゆうほ一】

- ・地域の農家の方から定期的に野菜を購入したり、ご厚意でいただいたりするなどしてつながりを深めることができた。

【工房 結】

- ・地域との交流では生駒南第二小学校のはばたきタイムに参加し、児童に紙漉き体験を行った。その他にも壺分小学校の放課後子ども教室にも参加して紙漉き体験を行った。また、たわわ食堂が 10 月から再開し、地域の方と一緒に食事作りに参加して食事をいただいたり、萩の台住宅地での出店を行うなど交流を図った。
- ・マムシなどが出ないように定期的に草刈りを行った。

【ボランティアとして活動くださった方々】

<班別／月別延べ人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別 小計
工房 結	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4. ひより（生活介護）

(1) 総括

4月より事業をスタートし、初年度はメンバーが安定して過ごすための環境づくりに力を入れて取り組んだ。人数に対して拠点の部屋が手狭になっていることやメンバーによっては集団に上手く馴染めていない方もおられ、特性理解を深めながら新たな拠点の整備を手掛けてきた。

作業面ではいぶき班で取り組んできた農業を軸にしながら新たに加工場での作業を取り入れて組み立てを行った。農業ではじっくりと作業に取り組むことができるようになり、メンバーの主体性も高まってきている。加工作業ではメンマづくりや地域の方との味噌作りなど、メンバーの仕事の幅も広がった一方で、衛生面や作業スキルの面で参加できる方が限定的になっていること、また新製品の開発に向けての課題もある。2月には週1回からカフェもオープンすることができた。今後、ランチメニューの提供やカフェの日数を広げていくために体制の整備や準備も話し合いをすすめている。

(2) 職員体制

- ・所属長                      常勤1名(サービス管理責任者兼務)
- ・生活支援員                常勤2名    サポート5名

(3) 利用者の状況

【ひより】(令和5年3月31日現在)

④ 年齢構成

	20歳以下	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	71歳以上	計	平均
男	1	2	3	1	1	1	0	9	39.4
女	0	2	2	1	0	0	0	5	31.8
計	1	4	5	2	1	1	0	14	36.7

⑤ 障がいの程度 区分認定

	区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
男	0	0	0	1	3	2	3
女	0	0	0	0	0	3	2
合計	0	0	0	1	3	5	5

⑥ 稼働率

ひより【定員数 20 名 契約者数 14 名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4 月	20	13	64%	10 月	20	14	66%
5 月	19	13	63%	11 月	20	14	66%
6 月	22	13	62%	12 月	20	14	63%
7 月	21	13	62%	1 月	19	14	65%
8 月	20	13	64%	2 月	19	14	64%
9 月	20	13	64%	3 月	22	14	64%

【稼働率分析】

メンバーは安定して通所をすることができていたが、定員数に対して契約者数が下回っているため、通所率は 60% 台であった。

(4) 重点方針及び事業内容 取組結果

○新事業所『ひより』の円滑な事業運営と特色のある活動を展開する。

- ・農業では風のファームが近くなり、畑での活動時間が伸びたことでメンバーが主体的に参加するなど成果が見られた。一方で閑散期には作業が少ないこともあり、ゲミューゼとの連携やミーティングの中で今後の作付け量を増やして生産力をあげていく計画を考えている。
- ・加工ではメンバーの得手、不得手など、個々のアセスメントを行い、作業に従事してきた。シーズンごとに作るものが変わり、積み上げの難しさが課題であるが、準備や片付け、軽量等、それぞれが役割分担して業務に携わることができた。
- ・2 月 15 日にカフェのプレオープンを行い、2 月 22 日からは週 1 回毎週水曜日に営業を行っている。初日は地域の方を含めて 40 名ほどのお客様が来てくださった。

○メンバーの特性理解と作業活動の環境整備

- ・現在の活動拠点スペースを中心に室内作業や畑などの外活動を組んできた。障がい特性から活動がうまく設定・定着させることができていなかったメン

バーに対しては新たな拠点を設けることで落ち着いて過ごせるよう環境を設定することができた。

(5) 職員育成、事業所独自のリスク対策、地域との交流、連携

- ・農政局の補助金を受けて、5月わかやまインフィニティ、2月福岡県糸島市メンマプロジェクト、3月福井県びあファームへ見学と視察に行き、加工品やメンマ製造の指導、アドバイスを受けた。
- ・2月に生駒市健康づくり推進員連絡協議会の方々から味噌の作り方を直接指導していただく機会をもつことができた。
- ・11月にひよりで地域の方を招いて交流会を実施した。30名ほどの地元自治会の方々に来てくださり、ひよりのことを知っていただく機会をもつことができた。
- ・生駒北小学校の校区体験で、小学生にひよりの加工場の見学や作業体験を行った。
- ・地元の久保自治会に入会し、地域清掃などの活動に参加した。
- ・マムシの発生を防ぐため、定期的にシルバー人材に依頼をして草刈りを行った。

【ボランティアとして活動くださった方々】

<班別/月別延べ人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別小計
ひよりの	0	0	4	3	3	3	4	4	4	3	3	3	34

【休日開所の参加状況】

休日開所【全体 61 名】							
	登録総数	参加人数	参加率		登録総数	参加人数	参加率
4月	29名	29名	100%	10月	31名	30名	96%
5月	30名	30名	100%	11月	30名	26名	86%
6月				12月	31名	27名	87%
7月	29名	12名	41%	1月	30名	28名	93%
8月	30名	27名	90%	2月	31名	26名	83%
9月	30名	27名	90%	3月			

### Ⅲ.居住部門

### Ⅲ 居住部門

#### 暮らしプロジェクト

・暮らしプロジェクトでは小瀬プロジェクトを中心にすすめた。令和4年度の補助金申請に関しては見送ることとした。また、資材の高騰や申請期間に許可が下りるのか等課題もあり、レイアウトに関しても様々な意見をいただいたため、設計業者を選定しなおすこととなった。10月19日(水)にプロポーザル方式にて業者を選定し、株式会社ゆう建設設計に決定した。

#### 1. ラベンダー・一步の家・ポピー・クローバー (共同生活援助)

##### (1) 総括

各ホームで新型コロナウイルスに伴う対応を行った。陽性者や濃厚接触者について、どの方が対象となるかによってその都度ゾーニングや人的な調整対応が変わってくるため、感染拡大防止をするために直接支援と間接的な業務(調整など)を法人全体でも確認を取りながら対応を行った。特にグループホームで発生した場合は本部とも離れているため、情報共有の方法や役割分担・緊急的にヘルプが出来るように防護服の着用等の研修に関しても整理していく必要がある。

高齢化が進む中で機能低下や病気を患われる方も増えてきている。その都度ご家族やかかりつけ医・施設看護師・施設栄養士など関係者でケース会議を行いメンバーにとってのより最適な支援を検討した。

##### (2) 職員体制

- ・施設長 常勤1名
- ・生活支援員 常勤4名 嘱託1名  
サポート3名 アルバイト30名

##### (3) 利用者の状況

###### ①年齢構成

###### 【グループホーム】

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	70歳以上	平均年齢
男	0	0	5	5	1	0	0	42.1
女	0	0	5	9	2	0	0	43.1
計	0	0	10	14	3	0	0	42.7



## ②障がいの程度 区分認定

### 【グループホーム】

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	0	0	0	0	0	4	7
女	0	0	1	0	2	4	9
合計	0	0	1	0	2	8	16

### (4) 重点方針及び事業内容 取り組み結果

#### ○小瀬プロジェクト（施設整備補助金申請・入居者募集・実費負担金設定など）

- ・上記暮らしプロジェクトに記載。

#### ○人材獲得/確保/育成

- ・毎年行っている天理大学の講義で施設紹介とアルバイト募集を行うことと、アルバイトからの紹介・派遣会社からの紹介で女性7名と男性2名を採用した。全て学生で勤務可能時間が重なることもあり、今後は主婦層の定期的に勤務できる方の確保を目指す。
- ・人材育成に関しては、スタッフ会議を各ホームで行っているが、学生の参加が難しく、新人スタッフもいる中で勉強会の開催を行う必要があるが実施できなかった。
- ・人材派遣会社からの人材派遣に関しても視野に入れて人材獲得に取り組んだ。

#### ○メンバーが現在・将来どのように過ごしたいかなど実現できるように、支援の振り返り・見直しを行う

- ・勤続年数に応じた研修に参加する中で、意思決定についても話が多く出るようになった。現場でも意思決定の視点を持ちながら支援することが出来るよう会議の中でも話し合いをした。
- ・新型コロナウイルスの対応を通して日々の過ごし方の課題（運動や過ごし方など）が見えてきた。また、高齢化に伴い、機能低下については日々変化が見られるため、通院等に関しても増えている状況にある。

【ラベンダー・一歩の家・ポピー・クローバー・たびだちの家（共同生活援助）】

	開 所 数	一歩の家		たびだち の家		ポピー		クローバー		ラベンダー		合計	
		7名		5名		6名		6名		4名		28名	
4月	30	187	89%	84	70%	161	89%	170	94%	78	65%	680	80%
5月	31	184	84%	76	49%	169	90%	168	90%	77	62%	674	77%
6月	30	186	88%	92	61%	167	92%	172	95%	90	75%	707	84%
7月	31	176	81%	85	54%	164	88%	179	96%	84	67%	688	79%
8月	31	174	82%	70	61%	163	88%	163	93%	64	62%	634	73%
9月	30	179	85%	60	40%	163	90%	169	93%	83	69%	654	77%
10月	31	181	83%	80	51%	170	91%	176	94%	88	70%	695	80%
11月	30	169	80%	74	49%	162	90%	161	89%	88	73%	654	77%
12月	31	116	53%	84	54%	172	92%	172	92%	62	50%	606	69%
1月	31	165	76%	82	52%	138	74%	163	87%	63	50%	611	70%
2月	28	154	78%	81	57%	155	92%	160	95%	84	75%	634	80%
3月	31	186	85%	94	60%	161	86%	172	92%	99	79%	712	82%
合計・平均		2057	80%	962	52%	1945	88%	2025	92%	960	65%	7949	77%

※コロナ陽性者発生時にはご理解をいただきながら利用の制限をかけることもあり、稼働率が下がっているホームもある。そういった状況の中でも市との協議の中でグループホームの在宅支援も認めてもらうことが出来たため、大幅な減収には至らなかった。

(5) 職員育成

- ・施設内や施設外の対面での研修も増えていた中であつたが、オンラインの研修を含めて、職員の経験年数に応じた研修に参加した。
- ・ICTの活用として介護パワースーツや眠りスキャンを導入した。
- ・定期的に係長・主任が職員との時間を合わせた勤務を作るなどして報連相を行うことが出来る時間を作り、その中で情報共有を行い、職員が課題を抱え込まないように努めた。
- ・スタッフ会議は月に1回行っていたが、ホーム合同でのスタッフ勉強会は出来なかった。

(6) 新型コロナウイルス対応

- ・一歩の家・ラベンダー・ポピーでメンバーや職員がコロナウイルスに感染し、入院対応等はなかったため、各ホームやラベンダー2階で隔離対応等を行い、法人全体での応援も受けて陽性者の方を支援した。

2. おかりなの家 (福祉ホーム・居宅介護の一部短期入所)

おかりなの家 (短期入所事業)

(1) 総括

福祉ホームでも新型コロナウイルスに感染されたメンバーもいたが、他のユニットの方との接触がなかったため、他のユニットまで行動制限を設けることはなく事業を行った。

高齢化に伴い、体調が安定されない方や機能低下が見られる方がグループホーム同様に増えている。法人内の健康管理委員会を中心に食事形態に関してもその都度見直しを行いながら、安心安全に食事を行うことが出来るよう努めた。福祉ホームでは半数以上のメンバーの方が、難病に伴う特別食や一部刻み食を提供している。

将来の事を考え緊急時の対応やメンバー自身がどのように過ごしたいか等考える機会が多い1年となった。

(2) 職員体制

- ・施設長 常勤1名
- ・生活支援員 常勤8名 嘱託5名 サポート1名 アルバイト5名  
※内2名短期入所担当

(3) 利用者の状況

①年齢構成

【福祉ホーム】

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71歳以上	平均年齢
男	0	1	2	3	3	2	1	50.5
女	0	0	3	2	1	0	0	42.5
計	0	1	5	5	4	2	1	47.8

②障がいの程度 区分認定

【福祉ホーム】

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	0	0	0	0	3	2	7
女	0	0	0	0	1	1	4
合計	0	0	0	0	4	3	11

(4) 重点方針及び事業内容 取り組み結果

※居住部門としてグループホームと同じ重点方針ですすめた。

【福祉ホーム】

稼働率 (%)

	開所数	やまぼうし		あおぞら		わかくさ		ひまわり		合計	
		4名	92%	6名	100%	4名	48%	6名	90%	20名	85%
4月	30	111	92%	180	100%	58	48%	163	90%	512	85%
5月	31	112	90%	186	100%	60	48%	166	89%	524	84%
6月	30	112	93%	180	100%	58	48%	167	92%	546	86%
7月	31	112	90%	186	100%	62	50%	170	94%	530	85%
8月	31	118	95%	186	100%	60	48%	174	93%	538	86%
9月	30	118	98%	180	100%	58	48%	165	91%	521	86%
10月	31	122	98%	186	100%	62	50%	169	90%	539	86%
11月	30	118	98%	180	100%	58	48%	167	92%	523	87%
12月	31	112	90%	186	100%	62	50%	171	91%	531	85%
1月	31	118	95%	185	100%	60	48%	165	88%	528	85%
2月	28	108	96%	168	100%	56	50%	148	88%	480	85%
3月	31	122	98%	186	100%	62	50%	172	92%	542	87%
合計・平均		1383	94%	2190	100%	716	49%	1997	91%	6286	86%

※福祉ホームでもコロナ陽性者の発生もあったが、そのことで大きく稼働率が下がることなく、事業継続を行うことが出来た。

【ラベンダー、福祉ホームおかりなの家（短期入所）】

稼働率 (%) ※福祉ホーム男性2床 女性2床 ※ラベンダー1床

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	85%	77%	100%	100%	48%	85%	83%	101%	69%	80%	94%	98%	89%
女性	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	6%	6%	4%	12%	8%	3%
全体	42%	38%	50%	50%	24%	42%	41%	54%	39%	42%	50%	53%	46%

#### (4) 職員育成

- 毎日の終礼や朝礼の中でメンバーの体調面や精神面の引継ぎを行い、状態の変化の把握に努めた。しかし、情報共有にタイムラグがあったり必要な情報を把握しきれない部分もあったため、職員間でのコミュニケーションや意識の向上が必要となる。
- 眠りスキャンや介護パワースーツも導入し、メンバーの体調確認や職員の業務負担の軽減に努めた。
- 高齢化・重度化に伴い、会議が必要となるケースが増えている。その都度職員間や施設看護師・栄養士も参加するケース会議の場をもち、職員間での支援統一を図った。

## IV.地域生活部門

## IV 地域生活部門

### 《総括》

この一年も、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、状況に合わせて臨機応変に在宅支援や緊急時のサポートを行う必要があった。また、ご家族の高齢化や急な入院等に伴う環境の変化から、ご本人の生活全体をサポートする必要があるケースが多数見られた。

余暇支援においては、コロナ禍により限られた場所・行き先への支援となり、利用される方々に負担を強いてしまうこととなった。できる限り本人の意思決定を尊重した中で支援を実施した。

### 1. デイケアセンターかざぐるま（居宅介護等）

#### (1) 総括

居宅サービスのニーズとして通所後の延長支援や休日の外出支援・通院介助とニーズは多岐にわたり、希望も多くなっている。その中でヘルパーの人材確保を目標に掲げているが、居宅サービス事業所として独立してサービス提供を行うことが出来る人材確保には至らなかった。そのため、法人全体での職員の勤務体制の見直しを図り、令和 5 年度に向けて居宅サービス提供体制を整えることとなった。

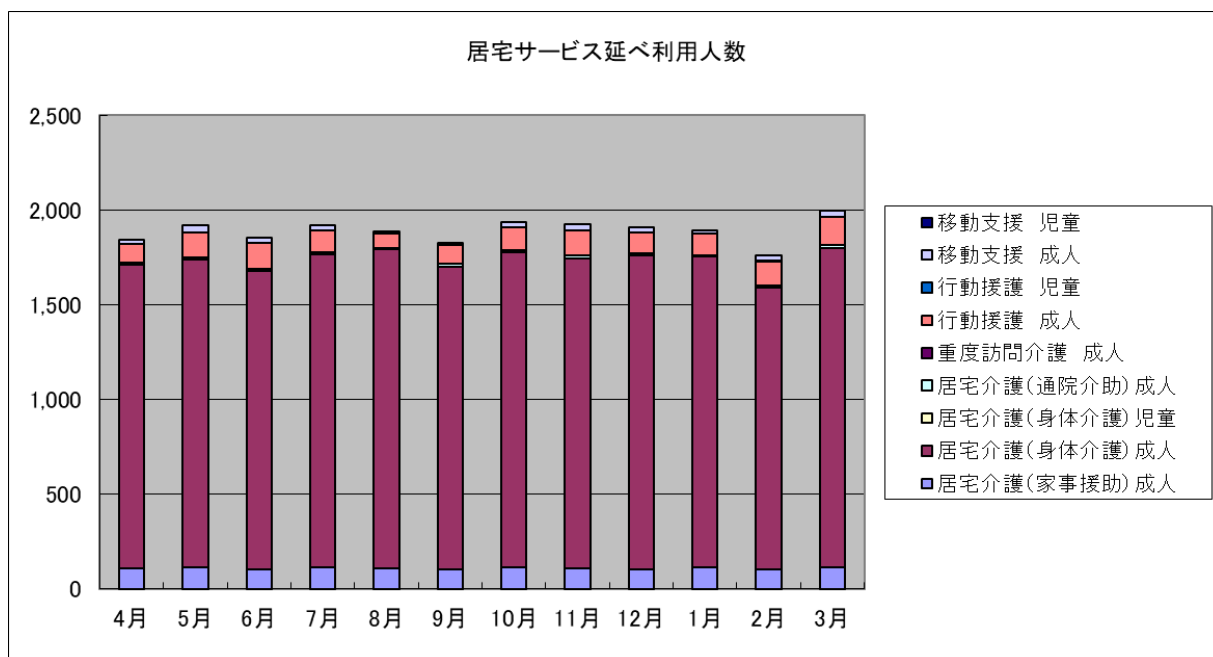
新型コロナウイルスに伴い居宅サービスの提供制限については発生状況等を見ながら変更を行った。

#### (2) 職員体制

- ・所属長 常勤 1 名
- ・支援員 常勤 15 名（専従 1 名、兼務 14 名）
- ・サポート(登録ヘルパー) 約 14 名

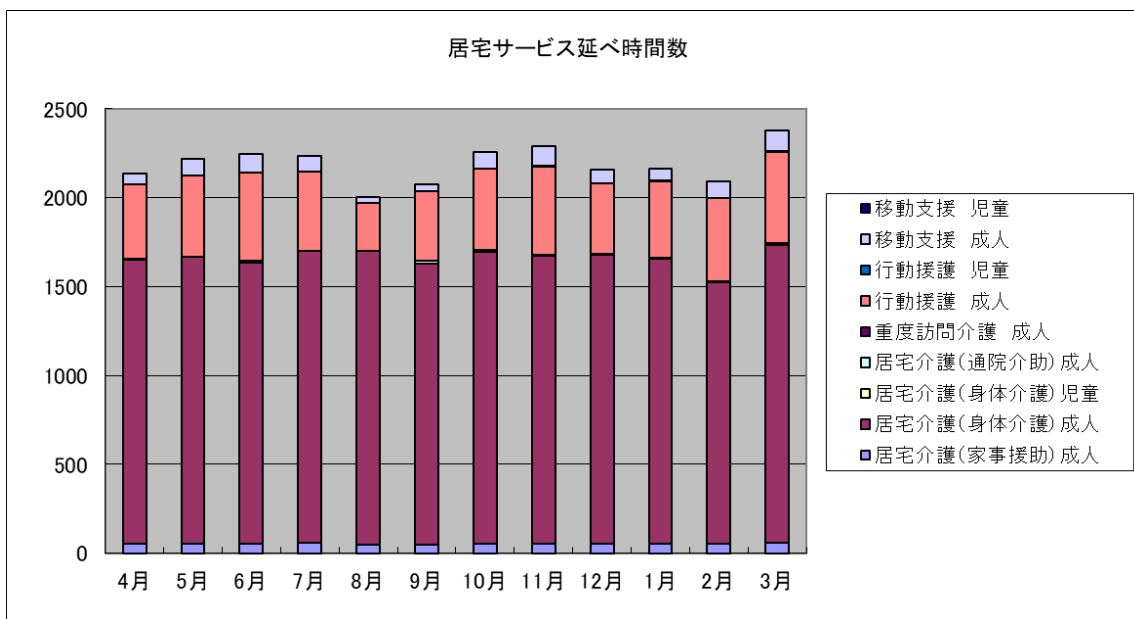
(3) 利用者の状況

令和4年度居宅サービス延べ利用人数														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
居宅介護 (家事援助)成人	110	112	104	113	110	101	111	109	105	111	103	113	1,302	95%
居宅介護 (身体介護)成人	1,599	1,629	1,572	1,654	1,684	1,599	1,666	1,637	1,657	1,643	1,486	1,687	19,513	109%
居宅介護 (身体介護)児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
居宅介護 (通院介助)成人	13	10	15	9	8	16	13	14	9	6	10	16	139	57%
重度訪問介護 成人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
行動援護 成人	101	131	134	117	73	98	120	133	113	116	131	147	1,414	116%
行動援護 児童	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	10	91%
移動支援 成人	18	35	31	25	13	11	27	32	23	18	28	31	292	77%
移動支援 児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	1,842	1,918	1,857	1,919	1,888	1,826	1,938	1,926	1,907	1,895	1,759	1,995	22,670	108%





令和4年度居宅サービス延べ時間数														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
居宅介護 (家事援助)成人	55	56	52	56.5	50	50.5	55.5	54.5	52.5	55.5	51.5	56.5	646	91%
居宅介護 (身体介護)成人	1595	1610	1581	1642	1649	1580.5	1642	1621	1626.5	1600	1472.5	1677.5	19297	111%
居宅介護 (身体介護)児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
居宅介護 (通院介助)成人	7	3	14.5	5	3	14.5	9.5	6	6.5	6.5	8.5	11.5	95.5	43%
重度訪問介護 成人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
行動援護 成人	416.5	456.5	494.5	444.5	271	389	455	495	393	431	465.5	514	5226	118%
行動援護 児童	2	2	2	1.5	0	2	2	3	0	2	2	2	20.5	93%
移動支援 成人	62	93	100	85	33.5	38.5	93	111.5	80	68	93.5	117.5	975.5	92%
移動支援 児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	2137.5	2220.5	2244	2234.5	2006.5	2075	2257	2291	2158.5	2163	2093.5	2379	26260	110%



#### (4) 重点方針及び事業内容 取組結果

- ヘルパーの人材確保、居宅サービス事業所としての独立した組織体制の整備
  - ・新規採用男性1名、女性2名（内1名は、サポート職員）退職2名、病気等で休職中3名になっており、年度当初より人材が減っている。ヘルパーの高齢化のため、今後もヘルパーの減少が予想される。募集をかけ何名か面接を行うが、応募者の希望と求めている職種が合わず採用に至らないこともあった。そのため独立した組織体制の整備はできていない。
  - ・通院等のニーズが増えており、福祉ホームやGHの職員に同行してもらうなど対応をしている。往診等に変更することができにくいこと、加齢等により、新たな疾患などが見つかるなどのニーズが増えている。
  
- 本人が「やりたい、楽しい」を感じることでできる支援の実施
  - ・コロナ禍で制限が多く、本人の望むような支援の実施が難しい状況が続いた。
  - ・アフター5も中止をする期間があったが、できるときにはニュースポーツなど新たな活動を取り入れている。感染を防ぐために、調理ではなく創作活動の実施に変更するなど工夫している。

#### (5) 職員育成

- ・毎月行っているヘルパーミーティングでは参加者は少人数ではあるが、支援上の課題や行き先の情報共有などの時間を持つことができた。

#### (6) 地域との交流・連携

- ・コロナ禍ではあったが、アフター5の時には壱分小学校の体育館をお借りしたり、クッキングのメニューではボランティアの方も参加してくださった。

## 2. 生活支援センターかざぐるま（相談支援）

### (1) 総括

相談支援の経験が浅い職員も多いことから、上半期は担当ケースの引き継ぎや各ケースの現状把握を丁寧に行い、関係機関との情報共有を密に図った。下半期は、概ね円滑に各ケースの相談業務を遂行することができたが、近年増加している引きこもりや家族間の包括的支援を要するケース等、多様なニーズに十分に対応することが難しい場面も見られた。

相談件数は、基幹相談 639 件、委託相談支援業務 9,173 件、計画相談業務 2,025 件、計 11,837 件と、前年の 9,282 件から 2,555 件増加している。引きこもり、アルコール依存、不登校、触法行為等、困りごとやニーズが多岐に渡っている

ことから、今まで以上に各相談員がケースワークを丁寧に行いながら真のニーズを汲み取り、関係機関と連携してすすめていく必要があった。今後、ますますニーズの多様化により、支援者がチームとなって当事者を支えていけるような仕組み作りが求められているといえる。

## (2) 職員体制

- ・センター長 常勤 1 名  
(相談支援専門員兼務)
- ・副センター長 常勤 1 名 (相談支援専門員兼務)
- ・相談支援専門員 常勤 3 名
- ・相談員 常勤 2 名 (うち 1 名居宅兼務)、非常勤 1 名
- ・事務員 常勤 1 名 (居宅事務兼務)

## (3) 利用者の状況

※別紙①「令和 4 年度生活支援センターかざぐるま概況報告」

## (4) 重点方針及び事業内容 取組結果

### ○地域の中核的な役割を担う相談支援の構築

- ・生駒市内外の相談支援事業所や学校、各サービス提供事業所から、難しいケースや行動障がいのある方の支援についてどのように進めたらいいのかアドバイスを求める相談が入ることがあった。ケースによっては、他の委託支援センターと連携して動いたり、情報を共有しながら進めていく必要があった。地域の中で困難事例や関係機関との連携が必要なケースが増える中、ケースの具体的な方向性を提案できるよう今後もケースワークのスキルを培っていく必要がある。

### ○精神、発達障がいを重複した方への継続的・包括的な支援

- ・今年度は 9 月と 2 月の年 2 回、SST の要素を含んだ、「スキルアップセミナー」を開催した。2 回とも 4～5 名程度の参加があり、反響も大きかった。今年度は、人間関係の悩みや SNS の使い方についてのテーマを取り上げたが、生活する上で人との付き合い方ややりとりにしんどさがある当事者が多い状況であるため、今後も継続していくニーズが高いと感じている。

### ○本人の状態像を把握し、適切な事業所の提案や合理的配慮

- ・可能な限りご本人のニーズに合った福祉サービスや社会資源を提案することができた。しかし、生駒市内外問わず、放課後等デイサービスや GH 等が急

激に増えているため、すべての事業所の情報把握は困難な状態である。また、不登校の児童や発達障がいのある児童、精神障がいを重複する当事者の方も増えており、まずは相談員との関係性づくりから関わりを始める等、すぐに福祉サービスの利用にはつながらないケースも多かった。

#### ○地域資源の発掘

- ・フォーマル／インフォーマルに限らず、地域資源の発掘は急務だが、現状は新たな資源を発掘できているとは言い難い。自立支援協議会等でも同様の問題提起がなされており、幅広く情報収集等を継続して行っていく必要がある。

#### ○社会生活力を高めるプログラムの見直し

- ・10月10日（祝）と3月5日（日）、ひよりにてBBQ大会を実施。コロナ対策を講じながら、安心安全に楽しめるよう配慮して行うことができた。両日とも多数の参加があり、今後も余暇イベントを開催してほしいとの要望が出ている。
- ・毎週土曜日に支援センターの場所を一部開放して行っているサロン活動は、コロナウイルス感染拡大予防の観点から、午後からのみの開所に変更する等、その時の感染状況に合わせて工夫して実施した。コロナ禍で感染の不安がある当事者も多く、来所者数は概ね5名以下であった。また、平日の日中にサロンの居場所として支援センターに来所するメンバーもおり、在宅の方や求職中の方にとって必要な場所として機能していた。

#### （5）職員育成

- ・学齢期は各教育機関、成人期や高齢期は各福祉サービス提供事業所や地域包括支援センター等と、幅広い年齢層の相談支援を円滑に行えるよう、それぞれの専門機関と随時連携し、風通しのよい関係性を築くことができた。また、障害基礎年金や成年後見制度、障がい手帳の取得、自立支援医療などの福祉制度についても、職員間で互いに情報共有を行う等、資質の向上に努めることができた。

#### （6）地域との交流、連携

- ・地域において、福祉サービスの活用だけでなくインフォーマルな支援を構築できるよう、地域の中での居場所の創設に向けて動いているが、地域資源の発掘には至らなかった。

#### (7) 施設設備

- ・事務所内のコピー機の入替（リース）
- ・利用者用パソコンの入替

### 3. 地域生活支援拠点等事業

#### (1) 総括

コロナ禍ということもあり、積極的な活動を行うことが出来なかったが、下半期に事業所向けの地域生活支援拠点等事業の説明会と緊急受け入れ時の支援者の登録制度についても話を進めることが出来た。支援者登録制度については今後生駒市外の事業所にも声をかけていく予定としている。

#### (2) 職員体制

- ・拠点担当職員 2名（内、2名グループホーム兼務）

#### (3) 重点方針及び事業内容 取り組み結果

##### ○相談機能、予防的対応としての相談会の実施

- ・強度行動障がい相談支援事業や自閉症 e サービスなどの専門機関につないだりするなどの活動については行うことができなかった。また、期日を設けて相談会を行う予定もしていたが、実施できなかった。

##### ○緊急時の受入れ

- ・緊急での受け入れはなかった。面的整備を進めるにあたり他法人の協力も得るため、登録書を策定し市内事業所に対して説明および依頼を行った。

##### ○ひとり暮らし体験

- ・感染予防をどのようにするか生駒市とも協議しており、抗原検査は許可がとれなかったため、1週間の行動歴を記載してもらうことで対応し、ひとり暮らし体験を再開した。

##### ○専門的人材の確保、養成

- ・定期的に拠点事業の会議を開催することが出来たが、支援センターとの合同の会議に関しては実施できなかったため、次年度の課題となった。

##### ○地域の体制づくり、啓発活動

- ・ひとり暮らしに興味や関心がある人などに対して、啓発講座の実施検討を行

う予定をしていたが実施することができなかった。

○自立生活援助事業の検討、他事業所との連携強化

- ・ひとり暮らし体験からひとり暮らしへの流れを確立することができなかったため、自立生活援助事業の必要性についても十分に検討できなかった。
- ・他法人との連携強化について、緊急時の登録もあわせて市内事業所に対して説明および依頼を行った。

【利用実績】

1. 緊急受け入れ事業 0件

2. 一人暮らし体験事業 3件

内訳 基礎体験コース（宿直者加配） 2件  
チャレンジコース 1件

3. 相談機能 登録者 5名

4. コーディネーター事業 262件

事業項目	件数
緊急時受け入れコーディネート	1
緊急時受け入れ対応	0
一人暮らしの体験に関する相談	14
地域生活支援拠点事業の整備・運営に関すること	3
その他地域生活支援拠点事業に関する相談	1
相談機能に関すること	243
計	262

【別紙①】

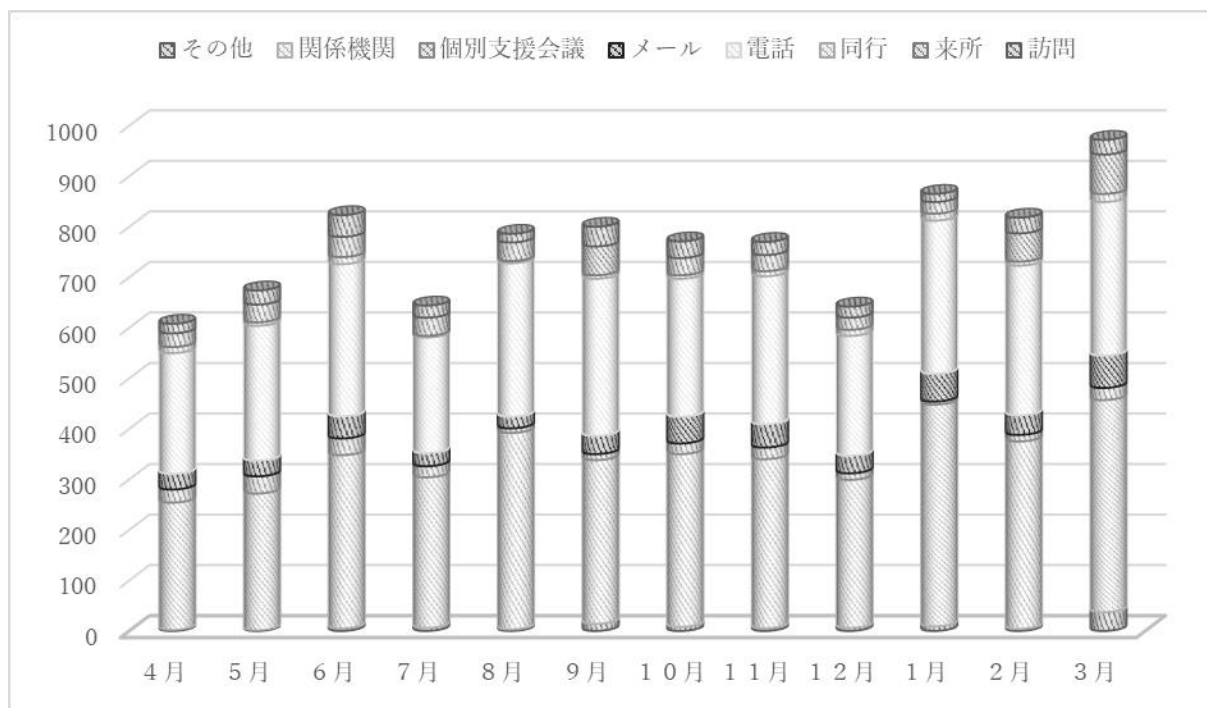
令和4年度生活支援センターかざぐるまの概況報告

1. 障害者相談支援事業の概要

(1) 障害者相談支援事業の件数

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援 会議	関係 機関	その他	合計
4月	19	27	12	239	31	26	252	2	608
5月	28	35	7	267	31	34	271	1	674
6月	43	40	14	301	44	33	343	5	823
7月	24	36	3	229	26	22	298	6	644
8月	17	37	4	304	23	9	389	3	786
9月	39	57	7	311	36	12	324	14	800
10月	33	34	7	273	53	21	342	8	771
11月	26	32	10	293	46	23	335	5	770
12月	22	24	12	237	35	13	293	6	642
1月	16	23	14	303	55	6	439	9	865
2月	31	56	8	296	39	13	371	4	818
3月	29	78	16	304	64	24	420	37	972
合計	327	479	114	3357	483	236	4077	100	9173

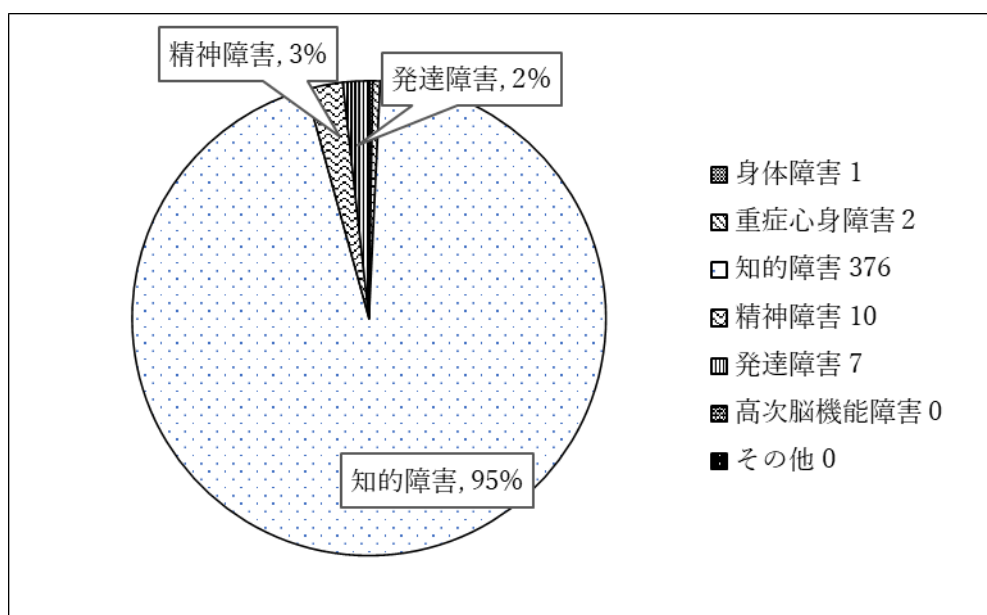
(2) 障害者相談支援事業の件数の推移



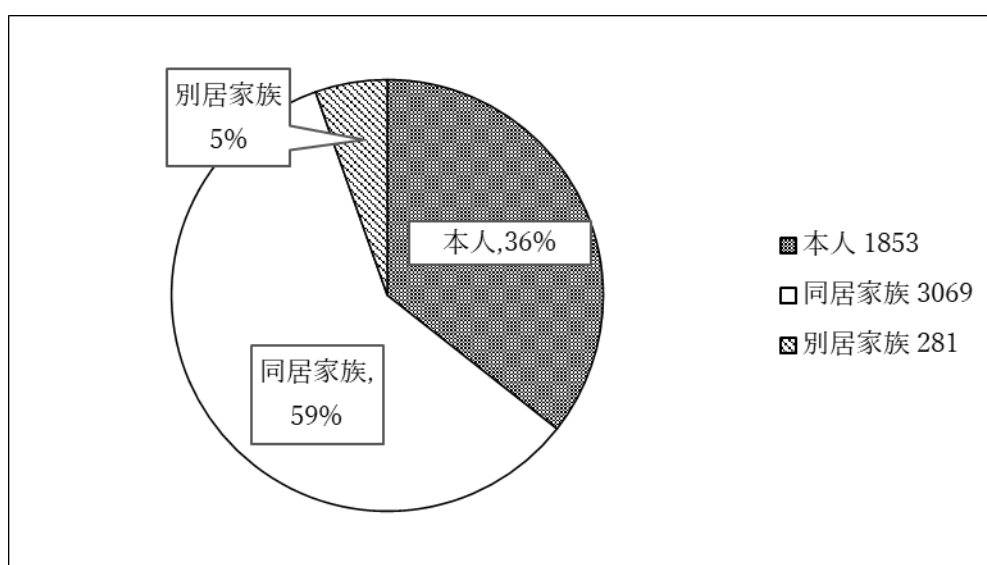
(3)障害者相談支援事業を利用している障がい者等の人数

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	340	0	2	330	7	0	0	0
障害児	56	1	0	46	3	7	0	0
計	396	1	2	376	10	7	0	0

(4)障がい種別の割合



(5)相談・連絡調整者の割合





## 2. 障害者相談支援事業の内容について

福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援
5990	116	484	417	66	176
家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他
62	189	332	206	88	1047

### (1)福祉サービスの利用等に関する支援

- ・障がい福祉サービスの利用に関する相談、調整、申請援助
- ・障がい支援区分認定に関する申請援助、調査
- ・障がい福祉サービスの内容に関すること
- ・障がい福祉サービス受給者証に関すること
- ・児童福祉法に基づく放課後等デイサービスに関すること
- ・市内転入、市外転出に伴う情報提供、申請援助
- ・利用者負担上限額管理について情報提供、申請援助
- ・介護保険への移行や併給に関すること
- ・医療機関から退院後の地域生活支援に関すること
- ・障がい者手帳に関すること
- ・日常生活用具、補装具の給付に伴う情報提供、申請援助
- ・事業所利用に向けた見学同行
- ・事業所退所に関する相談・調整援助
- ・福祉サービス事業所の空き状況等に関する情報収集
- ・サービス提供事業所との関係性の構築に関する相談、調整
- ・訪問看護の利用に関すること
- ・新型コロナウイルスによる休校に伴う放課後等デイサービスの支給量に関すること
- ・新型コロナウイルスによる就労継続支援事業、生活介護事業等の在宅支援に関すること
- ・グループホームへの体験利用や入居に関すること

など

### (2)障がいや病状の理解に関する支援

- ・本人の病状に関する相談
- ・本人の障がい特性の理解の促進

- ・本人の障がい特性の分析、評価に関すること
- ・本人自身の障がい受容に関すること

など

### (3)健康・医療に関する支援

- ・本人の状態に見合った医療機関の紹介、連絡調整
- ・本人・家族の健康状態の変化についての相談
- ・病状について医師との連携、連絡、調整
- ・医療機関への同行支援
- ・入院に伴う医療機関、家族、支援事業所との連携、連絡、調整
- ・難病発症に伴う医療機関、支援事業所との連携、連絡、調整
- ・健康維持に関する相談

など

### (4)不安の解消・情緒安定に関する支援

- ・一人暮らしの方の生活の不安に関する相談、生活状況の確認
- ・本人の不安定な状況に対しての情緒安定に関する相談
- ・本人の行方不明について
- ・パニック時の他傷行為、自傷行為に関する相談、連絡、調整、緊急訪問
- ・当事者とサービス提供事業者間でのトラブルに関する相談
- ・触法行為への対応相談
- ・社会的不適応行為に対する対応相談
- ・ひきこもり、不登校、社会参加の難しいケースの相談
- ・新型コロナウイルスに対する不安、心配に関する相談

など

### (5)保育・教育に関する支援

- ・学校の通学に関する相談
- ・養護学校の進路に関する相談
- ・高校進学に関する相談
- ・不登校に関する相談
- ・本人の状況確認のための養護学校訪問
- ・教員の障がい理解や特性理解に関する相談

など

(6) 家族関係・人間関係に関する支援

- ・ 当事者間でのトラブルに関する相談
- ・ 交際相手とのトラブルに関する相談
- ・ 家族と本人との関係性についての相談
- ・ 家族の入院、退院に伴う医療機関、支援事業所との連携、連絡、調整
- ・ 家族状況の安定に関わる介護保険事業所との連携、連絡、調整
- ・ 家族・兄弟支援の介入についての相談
- ・ 対人関係の構築に関する相談
- ・ 地域住民との関係構築に関する相談
- ・ SNS の利用に関するトラブルについての相談

など

(7) 家計・経済に関する支援

- ・ 障がい基礎年金に関する相談、申請同行
- ・ 医療費の助成制度に関すること
- ・ 生駒市生き生きクーポン券に関すること
- ・ 国民健康保険に関すること
- ・ 特別障がい者手当に関すること
- ・ 特別児童扶養手当に関すること
- ・ 生活保護に関すること
- ・ 権利擁護事業の利用による金銭管理の進捗状況

など

(8) 生活技術に関する支援

- ・ 育児に関すること
- ・ 引っ越しに関すること
- ・ 一人暮らしの生活に関する相談
- ・ 生活状況の確認のための定期訪問

など

(9) 就労に関する支援

- ・ 就職活動に関すること
- ・ 高校卒業後の就職先に関すること
- ・ 就業・生活支援センターへのケース報告、連絡、調整
- ・ ハローワークへの連絡、調整、同行
- ・ 仕事に関する相談、連絡、調整

- ・就労先へのケース報告、連絡、調整、訪問
- ・就労の継続に関する相談

など

#### (10)社会参加・余暇活動に関する支援

- ・社会生活力を高めるプログラムに関すること
- ・インフォーマルな資源の紹介、連絡、調整
- ・障がい特性に応じた地域資源の紹介
- ・ひきこもり状況からの社会参加へ向けた相談
- ・居場所づくりの関すること

など

#### (11)権利擁護に関する支援

- ・成年後見人へのケース報告、連絡、調整
- ・成年後見制度の情報提供
- ・権利擁護事業に関する情報提供、連絡、調整
- ・親亡き後の本人の権利擁護に関すること
- ・虐待の疑いに関する相談
- ・本人の相続権に関すること
- ・債務整理に関する専門職との相談、調整

など

#### (12)その他

- ・障がい福祉サービスの聞き取りにおける日程調整
- ・サービス調整会議における日程調整
- ・機関紙「かぜいろだより」の取材、発行

など

### 3. 障害者相談支援事業の傾向について

- ・令和4年度相談業務件数は9,173件で、前年度の6,694件から2,479件増加している。  
前年度から引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う相談や手続き等の対応の増加が見られた。また、発達障がいの方や、知的障がいと精神障がいを重複している方のケースが増加している。
- ・令和4年度相談対象者は396名となり、昨年度から14名増加している。成人では、家族の急病や高齢化に伴うご本人の生活支援（グループホームへの入居や短期入所サービスの利用等）に関する相談等が増加している。学齢期では、不登校や学校に行き

づらい児童の新規利用などが急増している。

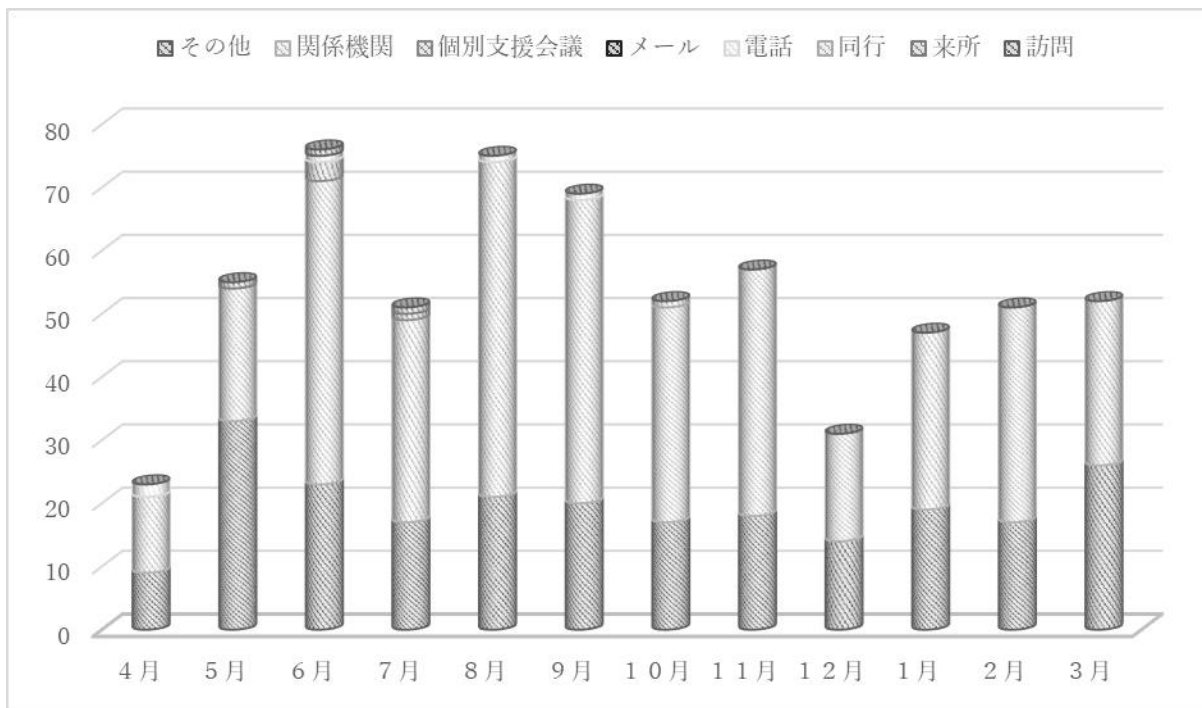
- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、引き続き、ご本人、ご家族や事業所から、就労継続支援事業、生活介護事業等の在宅支援に関する相談も多く、随時調整等の対応が必要であった。
- ・前年度同様、家族状況の変化等による動きが多く、ご家族の急な入院や高齢化等によりご本人の生活の場を整える支援や、今後の生活全般を調整する必要があるケースが見られた。ご家族に限らず、ご本人の健康状態の悪化や身体機能低下等が見られるケースも増えており、訪問看護や訪問歯科との情報共有や受診の付き添い等、医療との連携や介護保険への移行等が必要になるケースも増えていた。
- ・不登校や、不登校の子どもの居場所に悩むご家族からの相談が増加している。人との関わりや人間関係の構築にしんどさを抱える児童がほとんどで、関係性をつくるのに時間を要するケースも多く、学校との連携や教員への障がい特性理解の促進等に取り組む必要があった。
- ・ご本人だけでなく、ご家族にも障がいがあり家族全体への支援が必要なケースが増えている。ご自身やご家族に障がいがあることに対して、障がい受容が十分にできていないケースも多く、ご自身やご家族に障がいがあることへの抵抗感、否定感を受け止め、傾聴しながら時間をかけて対応する必要があった。

#### 4. 基幹相談支援センター等機能強化事業の概要

##### (1)基幹相談支援センター等機能強化事業の件数

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
4月	0	0	0	2	0	0	12	9	23
5月	0	1	0	0	0	0	21	33	55
6月	1	0	0	1	0	3	48	23	76
7月	0	1	0	0	0	1	32	17	51
8月	0	0	0	1	0	0	53	21	75
9月	0	0	0	1	0	0	48	20	69
10月	0	0	1	0	0	0	34	17	52
11月	0	0	0	0	0	0	39	18	57
12月	0	0	0	0	0	0	17	14	31
1月	0	0	0	0	0	0	28	19	47
2月	0	0	0	0	0	0	34	17	51
3月	0	0	0	0	0	0	26	26	52
合計	1	2	1	5	0	4	392	234	639

(2) 基幹相談支援センター等機能強化事業の件数の推移



5. 基幹相談支援センター等機能強化事業の内容について

	自立支援協議会	指定特定相談支援事業所連絡会	研修等企画	会議等出席
件数	63	11	3	11
	指定特定・指定障害児相談支援事業所への助言等	関係機関との連携	拠点一人暮らし体験の調整	その他
件数	215	100	10	226

(1) 自立支援協議会

- ・ 障がい者地域自立支援協議会担当者会
- ・ 障がい者地域自立支援協議会暮らし部会
- ・ 障がい者地域自立支援協議会権利擁護部会
- ・ 障がい者地域自立支援協議会こども支援部会

(2)指定特定相談支援事業所連絡会

- ・市内指定特定相談支援事業所連絡会

(3)研修企画等

- ・研修会等の参加状況

- ・7月5日 令和3年度障がい支援区分認定調査員研修（オンライン）
- ・9月14日 令和4年度奈良県相談支援従事者初任者研修（オンライン研修）
- ・12月13日 令和5年度奈良県相談支援従事者現任研修（オンライン研修）

- ・「かんたん・おいしい・夕食作り」の企画、実施

参加者が自立に向けた調理技術を習得するとともに、参加者同士の交流を図るために18歳以上の知的障がい者を対象に毎月第4土曜日の17時30分から20時00分までたけまるホール調理室で料理教室を行ってきたが、昨年引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止することとなった。

- ・サロン活動の実施

18歳以上の知的障がい者を対象に、毎週土曜日の9時30分から17時までサロン活動を行っていたが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、手洗い・アルコール消毒・検温等の感染対策を実施しながら、開所時間を13時から17時に短縮して実施した。県内で感染拡大が見られる時期は参加を自粛する方もおり、参加人数は昨年より82人少なかった。また、平日の日中時間にサロン活動に近い目的で支援センターに来所する障がい当事者もおり、自宅から出にくい方や、人との関わりが苦手な方の居場所となっている。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加人数	21人	10人	16人	11人	9人	6人	4人	17人	10人	10人	17人	27人

延べ参加人数 158人

- ・生活支援センターかざぐるま主催企画、実施

生活支援センターかざぐるまが主催して、当事者同士が横のつながりを作っていくことを目的にBBQイベントを2回（10月・3月）に実施した。

- ・ステップアップセミナー（当事者勉強会）の企画、実施

生活支援センターかざぐるまが主催して、普段感じている悩みや困りごとについて当事者間で話し合ったり、解決策を一緒に考えたり情報交換を行うことを目的に、ステップアップセミナーを2回（9月・2月）に実施した。テーマに関しては、第1回目：「こ

んな時どうすればいい?～人間関係のあれこれ～」 第2回目:「SNSの使い方を考えよう!」であった。

#### (4)会議等出席

- ・ 処遇困難ケースの関係機関調整会議への出席
- ・ 利用者ケース会議でのスーパーバイズとして出席

#### (5)指定特定・指定障害児相談支援事業所への助言等

- ・ サービス等利用計画に関する相談、助言等
- ・ サービス担当者調整会議の進行相談、助言等
- ・ 障がい福祉サービス事業所に関する情報提供、相談、助言等
- ・ 市内転入、市外転出に伴う相談、助言等
- ・ 介護保険への移行に関する相談、助言等
- ・ 医療機関から退院後の地域生活支援に関する相談、助言等
- ・ 障がい者手帳に関する相談、助言等
- ・ 事業所退所に関する相談、助言等

#### (6)関係機関との連携

- ・ こどもサポートセンターゆうからの新規相談等
- ・ こども家庭相談センターからの障がい特性に応じた進路に関する相談等
- ・ 特別支援学校等からの障がい特性に応じた進路に関する相談等
- ・ 地域包括支援センターと連携して取り組んでいるケース
- ・ 他の生活支援センターと連携して取り組んでいるケース
- ・ 地域の事業所の説明会への参加

#### (7)拠点一人暮らし体験の調整

- ・ 一人暮らし体験事業の紹介、説明
- ・ 地域生活支援拠点職員への情報提供

#### (8)その他

- ・ 地域の事業所からの報告等
- ・ 虐待行為に関する状況確認、報告等
- ・ サロン等への参加



\* 定期的な会議の参加状況の一覧

会議名	内容	日時
障がい者地域自立支援協議会担当者会	行政・生駒市内の相談支援事業所が集まり、相談支援事業に関することや困難事例への対応に関する協議・調整、地域ネットワークの構築、情報交換を行う。	5月24日、7月27日、9月28日、11月22日、1月31日、3月29日
市内指定特定相談支援事業所事務連絡会	市内の計画相談事業所が集い、計画相談業務や制度に関する情報共有、ケースに関する検討を行い、市内の計画相談の質の向上に努める。	9月28日、1月31日
障がい者地域自立支援協議会くらし部会	行政・生駒市内相談支援事業所・生活に関わる関係機関から各担当者が集まり、暮らしに関する課題解決に向けた協議、活動や地域生活支援拠点についての進捗の共有や体制整備に関する意見交換等を行う。	5月23日、6月27日、7月25日、8月29日、9月26日、10月24日、11月28日、12月26日、1月23日、2月27日、3月27日
障がい者地域自立支援協議会権利擁護部会	行政・生駒市内相談支援事業所から各担当者が集まり、障がい者の権利・啓発に向け、虐待防止マニュアルの見直し、選挙啓発用の冊子の作成、あいさポーター研修、協議、活動を行う。	4月28日、6月23日、8月25日、10月27日、11月16日、12月22日、1月26日、2月22日、3月24日
障がい者地域自立支援協議会こども支援部会	行政・生駒市内相談支援事業所から各担当者が集まり、障がい児のたけまるノートの啓発、不登校に関する勉強会などの活動を行う。	4月28日、5月17日、6月21日、7月19日、8月16日、9月13日、10月18日、12月20日、2月21日

## 6. 基幹相談支援センター等機能強化事業の傾向について

- ・相談件数は 639 件で、前年度の 614 件と比べやや増加している。昨年から引き続き、新型コロナウイルスの影響もあり、この一年も対面で実施される会議等への参加が減少し、研修やイベント等の中止も多く見られたが、各関係機関への指導、助言等の機会は少しずつ増えている。
- ・自立支援協議会においては、zoom を活用したリモート会議の形を取り入れ、新型コロナウイルスの感染防止に努めながら少しずつ対面での会議に変更し、臨機応変に開催方法を工夫した。新規の相談支援事業所では相談員が一人で業務にあたっていることも多いため、できるだけ孤立しないよう日頃からやりとりを密に行うよう努めてきた。随時、担当できる件数の確認や福祉サービス提供事業所等の情報共有を図っている。
- ・何らかの生きにくさや集団への馴染みにくさを抱えた学齢期児童（高校生）の新規相談が急増している。不登校だけでなく、登校しているがしんどい状態であったり、対人関係で不適切な行為が見られる等、それぞれの悩みや課題が多様化している。将来を心配するご家族と、ご本人との感覚の違いやニーズの違いが見られることも少なくないため、慎重に聞き取りをして真のニーズを汲み取る必要があった。
- ・知的障がいのある方だけでなく、同居世帯に精神疾患、知的障がい、発達障がいなど、複合課題を抱える世帯の相談も増加しており、家族力の低下がみられるケースが急増している。精神障がいの相談支援機関、保健所、発達障がい者支援センター、介護保険関係の機関、精神科医療、教育関係機関、児童福祉関係機関（こどもサポートセンターゆう、子ども家庭相談センター）等との関わりに加え、生活支援課や権利擁護に関する機関との連携も増えている。
- ・利用者の高齢化に伴う介護保険への移行や併給を検討するケースも増えており、地域包括支援センターやケアマネージャーとの連携や情報共有を行う機会が多かった。
- ・軽度知的障がい者、発達障がい者の対人関係や地域でのトラブル、ひきこもり等の課題は近年増加傾向にあり、社会生活への参加や糸口を引き出す支援が求められている。しかし、ご本人に困り感がなく、周りが疲弊しているケースも多く、介入の糸口を探るため各関係機関へつないだり、チーム支援体制の強化が求められている。